

発達段階に応じたキャリア教育

各発達段階に応じた課題と推進ポイントを示しています。

幼稚園 幼稚園	人や社会とかかわる基盤形成の時期 ～身近な環境に主体的にかかわろうとする力の育成～
------------	--

幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開できるようにすることを通して、人や社会と「かかわる力」の基盤形成を図る

小学校 小学校	進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期 ～夢や希望に向かって努力する能力・態度の育成～
------------	--

日々の教育活動や職場見学等、地域とかかわる活動を通して、「働くこと」の意義や「自己の生き方について考えを深める」活動を推進する

中学校 中学校	現実的探索と暫定的選択の時期 ～将来の進路と社会をつなぐ能力・態度の育成～
------------	--

社会における自らの役割や将来の生き方・働き方について考えさせるために、職場体験等の体験的な学習活動を通して、現実の社会を学ぶ活動を推進する

高等学校 高等学校	現実的探索・試行と社会的移行準備の時期 ～自ら考え、未来を切り拓く能力・態度の育成～
--------------	---

就業体験(インターンシップ)等の様々な体験的な学習活動を通して、社会・職業への現実的理解を深め、将来に向けての目標設定や社会に参画する意識を醸成する活動を推進する

発達段階に応じて課題を系統的・体系的に推進することが大切です。

幼・小・中・高の学校間連携 (縦の連携)

異校種間の移行において連続性を保つことが大切です。

○円滑な連携を図るためのポイント

- ・異校種間の活動について、教職員が互いに理解を深める
- ・発達段階に応じた系統性のある指導計画を作成する
- ・幼児児童生徒のキャリア発達に関する情報を引き継ぐ



学校・地域間連携 (横の連携)

子供たちに実感を持って、現在の学びがどのように生活や社会と結び付いているかについて考えさせ体得させるためにも、学校、家庭、地域・企業・経済団体・NPO等が積極的に連携することが大切です。

○家庭に期待される役割

- ・将来職業人や社会人として必要とされる挨拶やマナー等、「生き方」の基礎を培う

○地域・企業・経済団体等に期待される役割

- ・地域の行事や企業等での体験を通して、地域の一員としての自覚を得させる
- ・「講演・出前授業」の講師として、働くことの意義や喜びを実感を伴って意識させる

体験的な学習活動の充実

体験的な学習活動の一環である職場見学・職場体験・就業体験(インターンシップ)によって現在の学習と実社会との関係について理解を深めさせることが大切です。

○体験的な学習活動の効果

- ・働くことの意義や喜びを知り、勤労観や職業観が醸成される
- ・学ぶことの意義や重要性を理解し、学びへの興味・関心が高まる
- ・社会人としての基本的な礼儀、挨拶、マナー等が身に付く
- ・自分の個性や特性を知り、主体的に今後の生き方や進路選択について考える
- ・様々な人とかかわりの中で、望ましい人間関係形成力の育成につながる
- ・地域の人とかかわりを通しての地域の再発見や地域への愛着につながる

学校におけるキャリア教育を支援するための取組

本県では、企業・経済団体等からの「講演・出前授業」に関するキャリア教育支援の情報や、職場見学・職場体験・就業体験(インターンシップ)の受入先企業等における情報を学校が直接閲覧できるデータベースシステムを構築し、次のアドレスにおいて掲載しています。



徳島県立総合教育センターホームページ
「あわ教育サポーター企業等データベースシステム」
URL <http://career-db.tokushima-ec.ed.jp/>
問合せ先 徳島県教育委員会学校政策課 TEL 088-621-3121

徳島県キャリア教育推進指針 概要版



平成26年3月 徳島県教育委員会